

(UNEP-ROAP 所長 Dechen Tsering より代読)

ご列席の皆様

「UNEP フォーラム 2022」において、国連環境計画 (UNEP) の事務局長であるインガー・アンダーセンからのお祝いの言葉をお伝えさせていただくことを光栄に思います。そして鈴木代表理事、吉村事務局長には、UNEP の重要な課題に目を向ける機会を作っていただき有難うございます。

「持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けた自然のための行動強化」をテーマとする UNEA-5.2 (第 5 回国連環境総会 再開セッション) において、日本がリーダーシップをとり、貴重な貢献をしてくださったことに感謝いたします。また、UNEP の 50 周年記念行事 (UNEP@50) への貢献も嬉しく思っております。

UNEA-5.2 では、海洋プラスチック汚染を始めとするプラスチック汚染対策に関する法的拘束力のある国際文書 (条約) について議論するための政府間交渉委員会 (INC) 設立に関する決議が採択されました。それに際し日本政府が、プラスチックのライフサイクル全般をふまえた幅広いアプローチを提言したことに感謝いたします。

「Stockholm + 50」会議は、1972 年開催の国連人間環境会議から 50 年を記念して、6 月初旬にスウェーデンのストックホルムで開催されました。テーマは「全ての繁栄にとっての健全な地球—我々の責任と機会」です。世界のリーダーたちが、地球環境問題に緊急に取り組むことを真摯に約束し、持続可能な経済への移行を呼びかけました。

「Stockholm + 50」で出された提言は、現在の経済システムを包括的に変え、影響の大きいセクターの変革を加速させる必要があるというものでした。社会全体で意欲的に取り組まなければならないのです。

天然資源の需要は、生産可能な量を上回っています。私たちは 9 ヶ月たらずの間に、1 年間に生産する量以上を消費し、その消費量は増え続けています。この危機は、私たちの努力のスピードを上回る勢いで加速しており、危機に先回りして立ち向かうには、これまで以上に、あらゆるレベルでより大きな志と行動が必要です。

UNEP は、日本 UNEP 協会や日本の方々と積極的に手を取り合い、地球と人類が直面している自然、気候、汚染の問題に取り組む所存です。私たちの目の前で繰り広げられている課題は、どの地域でも決して他人ごとではありません。地球はすでに存亡の危機を迎えています。

るのです。

UNEP は、プラスチック汚染に関する問題、自然保護活動、循環型経済の推進など、主な地球環境問題に対する日本のリーダーシップと努力をよく存じております。

このような場でご挨拶させていただくことを光栄に思い、あらためて感謝いたしますとともに、フォーラムのご成功をお祈り申し上げます。有難うございました。